

内定者による環境省紹介

H28年度理工系内定者(総合職・一般職)が一問一答形式で環境省をご紹介致します。あくまで個人的見解に基づくものです。ご参考程度にご覧頂きたいと思います。

1. 業務内容について

Q. 一番興味を持った環境省の仕事は？

- A. 温暖化対策と国際協力。
- A. 気候変動枠組条約の国際交渉。
- A. 海洋環境の保全。
- A. 温暖化関連です。官庁訪問を通じて、原発関連にも興味を持つようになった。
- A. 気候変動問題に関する国際交渉。
- A. 廃棄物の社会を目指した技術開発支援や新技術の導入しやすい社会制度の構築。
- A. 除染・大気・温暖化対策の仕事。
- A. アジア水環境改善モデル事業。
- A. 地球温暖化について。
- A. 水質汚濁や大気汚染の環境問題。
- A. 持続可能な社会づくり。

11人中6人が温暖化対策関連に興味を持っています。温暖化対策は喫緊の課題で環境省の大きな挑戦になっていると考えられます。また11人それぞれが異なったものに関心を抱いているとも感じられます。環境省が幅広い業務を行っていることが伺えます。

Q. 1年目にやってみたい仕事は？

- A. 化学物質管理、地球温暖化対策。
- A. 温暖化対策か国際協力はやってみたいが、1年目だとやれることが限られるし省庁は異動も多いので、1年目でなくても良い。まずは修行だと思う。
- A. 海洋環境の保全。特に海ゴミ対策をやってみたい。
- A. 特定の何かだけではなく、環境省を広く見渡せるような仕事をしたい。
- A. 何でもござれ！
- A. 廃棄物関連の仕事をやってみたい。バイオマスや3Rの推進など。
- A. 放射性物質汚染関連の仕事についてみたい。
- A. 地球温暖化対策に関すること全般。
- A. 任されたことだけを取り組むのではなく、そこから思い付いた対策や自分の考えを積極的に発言していきたいと思う。
- A. 環境問題の現状をできるだけ多く知りたい。
- A. 現場の声を聴きたい。

何でもござれは頼もしいかぎりです！内定者それぞれが異なるやりたい仕事を持っていますね。環境省の人物多様性があらわれている気がします。

Q. これから環境省はどのようなことに挑戦していくべきだと思うか？

- A. 環境省の取り組みをわかりやすく世の中に発信していくこと。
- A. 環境に関する研究に予算をつけるのはもっとやっていったらいいと思う。でもとりあえず今の私としては、今の業務を深く学ぼうと思う。
- A. Fun to Shareの更なる推進。
- A. 環境保全技術開発への投資。
- A. 国民一人ひとりにもっと親しみを持ってもらい、どんな世界を目指しているのか知ってもらうこと。
- A. ただ規制をかけるだけでは不十分な世の中になりました。教育・経済・税制・etc.に環境という概念を持たせる事に挑戦していくべきだと思う。
- A. 環境を軸に経済や社会を巻き込んでいくこと。
- A. 環境関連技術の支援、アフリカ諸国との事業モデルの形成。
- A. 環境問題について、もっと国民に意識してもらえるようにしていきたい。
- A. 新しいエネルギーへのアプローチ。
- A. 日本を誰もが認める環境先進国にする。

やはり理工系内定者ということで技術開発支援に挑戦していくべきだと考えている人が多いですね。また「環境」をみんなに知ってもらおうという啓発活動にも力をいれたら良いという意見も内定者の考えとしてうかがえます。

2. 人について

Q. 職員の男女比はどのくらいに感じましたか？

- A. 半々くらい。
- A. 思っていたより女性が多かった。
- A. 実際に働いている方は男：女＝3：2で少し男性が多いイメージ。
- A. 3：1くらい！
- A. 女性の方少ない…。
- A. 3割を目指すという目標が騒がれているが、環境省はすでに達成しているのでは？と思うくらい女性の方が多かった。
- A. 4：1くらい。
- A. 6：4くらい。
- A. 8：2くらい。
- A. 若干男性が多く感じたが、大体半々。
- A. ちょうど半分くらい。

みなさん言っている事がバラバラですね。見た場所によって男女比が異なるのかもしれませんが。傾向としては男性の方が多いようです。

Q. 環境省に合いそうな性格はどんな人だと思いますか？

- A. 意志の強い人。
- A. 職員のタイプも様々なのでどんな性格でも合うと思うし、色々な性格の人が求められている。
- A. 新しいことにどんどんチャレンジしていく精神と迅速な行動力を持っている人が環境省に合いそう。
- A. 環境問題に対して熱意を持って取り組める人。
- A. 性格は別に…どんなでも良いのだと思う。
- A. がつつがつしている人より、意見をきいて上手く調整できる人が向いていると思う。環境問題はステークホルダーが多くいろいろな意見を調整していかないといけないと思うので。
- A. チャレンジ精神を持っている人。
- A. どんなことにも興味をもって取り組める性格。自分の意見を言葉にできる人。
- A. 公務員に限った事ではありませんが、人と関わる仕事だと思うので人と関わるのが好きな人がいいと思う。また積極的・行動的な人の方が合うと思う。
- A. ポジティブな人。
- A. 興味を持つ力がある人。

環境省は新しい事に率先してどんどん挑戦していく省庁なので、最後までやり遂げるという意志の強さや新しい分野を開拓していくチャレンジ精神は求められそうです。

Q. 説明会や官庁訪問で会った職員はどんな人でしたか？

- A. 皆さん優しい人だった。
- A. 仕事に誇りを持っている人。あとはハードワーカー。
- A. 話をよく聞いてくださりすごく話しやすかった。あと、小さい省庁のためかお互いをよく知っているという印象を強く受けた。
- A. 自分のやっている仕事、やってきた仕事を面白そうに話してくれる人が多かった。
- A. 自分の興味の方向性上、国際業務に携わった方が多めではあったが、基本的に部署も年次も多岐に亘る。
- A. こちらの話を最後まで聞いてくれて、理解しようとしてくれる優しい方が多かった。
- A. 皆さん優しくいい人ばかりだった。
- A. 自分の仕事に対する深い理解と考えを持った方が多い印象。
- A. 本当に仕事を好きでやっている感じが伝わってくる方ばかりだった。
- A. みんなおおらかで話しやすい方ばかりだった。
- A. もういい感じの一言。

優しく、話をきちんと聞いてくれる人が多いという意見が圧倒的ですね。自分の仕事に誇りを持っていて、そして自分が何をしていくべきかしっかりとした考えを持っているから、楽しそうに話す人が多いのでしょう。

3. イメージについて

Q. 官庁訪問前の環境省のイメージは？

- A. 他省庁に比べゆっくり話す人が多い。
- A. 比較的穏やかそうだと思っていた。お話を伺いすると結構シビアにお仕事をされていて、大変であるとともにやりがいもあると思った。
- A. 規制することに関しては絶対に譲れないという強い意思をもった組織という印象。
- A. 環境問題の仕事に対して熱意を持っている集団。
- A. 人員が少ない、その分活躍の場が多く活気がある。
- A. 説明会で質問をすると丁寧にわかりやすく答えてくださるので、話をしっかり聞いて理解しようとしてくれていると思った。
- A. ベンチャーっぽい省。新しい。地球温暖化対策。
- A. 一年目から色々なことを任せてもらえる。
- A. 環境問題への対策や試行を行っているところだと思った。
- A. 環境と名の付くもの全てを相手にしている。
- A. 明るい、なごやかなイメージ。

職員の方は熱い方が多いようです。

Q. 就活期間に環境省のイメージを作るためにどんなことをしましたか？

- A. 説明会に参加する。
- A. パンフレットやHPを見たり、環境省関連の本をあさったりした。
- A. 多くの職員さんのお話を聞こうと思い、説明会にはできるだけ参加した。
- A. パンフレットや環境省のHPを見てどういった政策をやっているのかや自分が環境省に入ったらどんな仕事をするのかをイメージするようにしていた。
- A. 官庁訪問中は若手の職員さんが、待合室に来てくれるので、その時に環境省の雰囲気や働きやすさなどを質問した。
- A. 説明会等での職員さんの言葉でイメージを植え付けられた。官庁訪問では個々の業務の話聞くので、省としてのイメージは特に浮かばなかった。
- A. 白書を読む、説明会で質問をするの2つ。
- A. Facebookの環境省採用・キャリア形成支援を見た。説明会・JOBトーク等にも参加した。
- A. 説明会で職員さんと会話。パンフレットやHPの閲覧、他省庁との比較。
- A. HPや資料を隅から隅まで読んだ。
- A. 環境省関連の新聞記事を読んだ。

イメージ作りに説明会は欠かせないようです。環境省の説明会では質問タイムや座談会形式によって職員さんと直接お話できる機会が多いです。

Q. 職場の雰囲気はどんな感じでしたか？

- A. 明るく和やか。
- A. 職場は省庁っぽい真面目なイメージを受けた。環境省は夏は28℃設定で暑そうと言われるが、普通だと思った。
- A. 仕事の上ではわからないことをどんどん周りの人や上司の人に聞いていて、とても風通しがよく活気のある職場だと感じた。
- A. じっくり観察するほど余裕はなかったが、談笑を交えて仕事をされているのを見て、働きやすい雰囲気だと感じた。
- A. 部署によって違った。柔らかくて居心地が良さそうな雰囲気のところもあれば、やや殺伐としていてちょっと怖かったところもあった。
- A. 活発に議論をしていて、自分が入っても自分の考えをしっかりと聞いてくれそうだった。
- A. 忙しい感じだった。
- A. 服装がクールビズでフランクな印象。職員さんの仲がすごくいい。
- A. 職場は当然忙しい。所々でミーティングが行われていた。
- A. 体育会系のように厳しくはなく、上司との距離が近い印象を受けた。
- A. 忙しい感じだった。

28℃設定は直射日光が入らない限り快適に過ごせる温度ですね。職員さん同士の仲が非常に良さそうで黙々と働いているというよりは議論が活発で活気のある職場という印象でしょうか。

いかがでしたか？ 以上は今年度の内定者の主観に基づくものです。もしこちらを見ていただいて環境省のことを少しでも興味を持ってくだされば、将来の一つとしてご検討下さい！